

令和7年度第2回日野市ごみ減量・リサイクル等推進協議会 要点録

■会議の日時等

日時 令和7年(2025年)10月16日(木) 午前10時~午前11時10分

会場 日野市クリーンセンター プラスチック類資源化施設 2階多目的室

出席者 **協議会委員**

【廃棄物に関し学識経験のある者】

宮脇委員

【市民委員】

公募市民:新井委員、小松原委員、清水委員、小川委員

市民団体:関口委員、小野寺委員

学生 :田中委員、五味委員

【ごみ減量の推進体制の構築に資する事業者及び団体の関係者】

高松委員、多治見委員、津嶋委員、内田委員

【環境政策課長】

成澤委員

【施設課長】

細谷委員

事務局

【ごみゼロ推進課】

小澤課長、志村係長、山口、河本

欠席者 **協議会委員**

【市民委員】

学生:興津委員、鈴木委員

【ごみ減量の推進体制の構築に資する事業者及び団体の関係者】

新野委員

傍聴者 なし

次第

- 1.委嘱状交付式
- 2.自己紹介
- 3.会長及び副会長選出
- 4.協議会について
- 5.その他

■主な内容

<協議会>

1. 委嘱状交付式
 - ・机上配布。
2. 自己紹介
 - ・委員及び事務局より。
3. 会長及び副会長
 - ・会長に宮脇委員を互選により選出。副会長に高松委員を会長推薦により選出。
4. 協議会について
 - ・事務局より説明
 - ① 協議会の役割について
 - ② 今期の協議会の活動予定
 - ③ 第3次ごみゼロプランについて

(会長より補足説明)

- ・ごみゼロプランとは、どこの自治体でも策定している基本計画のこと。
- ・日野市ではこれまで行政だけで策定するのではなく、市民や事業者等と協力して策定してきた経緯あり。
- ・計画期間の半分が経過した時点で中間評価を行う自治体が多い。

(質疑応答)

A 委員:令和2年~3年頃に新型コロナウイルス感染症が流行したが、このような特異的事象にあって、ごみ行政に何らかの影響はあったのか?また、第4次ごみゼロプラン策定にあたっては特異的事象に考慮した上で策定した方がよいのか?

事務局:新型コロナウイルス感染症流行時は、1人1日あたりのごみ・資源物排出量は一時的に増加した。日野市の場合、近隣市と比較し飲食店が少なめのため、自宅で食事する場面が多くなった影響で排出量も増加したものと思われる。また、宅配等利用増によりダンボール等も増加。

新型コロナウイルス感染症が収束した結果、1人1日あたりのごみ・資源物排出量も減少傾向へ。第4次ごみゼロプラン策定にあたっては、このような特異的事象を考慮して策定していくことは、現状、想定していない。

B 委員:補足として、コロナ禍でリモートワーク等自宅にいる時間が増えたことで片付け等により、古着等も1か月の回収量が1日で出されたこともあった。本当にイレギュラーなことであったので、次期計画では考慮しなくても良いかと思う。

④ 第3次ごみゼロプランにおける数値目標(現状)について

C 委員:ここまでの数値現状を報告いただいたが、資源物や粗大ごみ、有害物等についてもさらに細かく指標にすべきと考える。

D 委員:資料「第3次ごみゼロプラン数値目標について」(4)最終処分量において、ずっと0(ゼロ)となっているが、これはどういう意味であるのか?

事務局:日野市・国分寺市・小金井市の可燃ごみは佐川清流環境組合可燃ごみ処理施設において処理。最終的に灰になるが、これを最終処分量と呼び、最終処分地であるニツ塚処分場(日の出町)に運んでいる。

⑤ 第4次ごみゼロプランの検討及び策定について

5. その他